

「中間まとめ」に関する投書等

	差出人	内容	対応
1	都内のハローワークで刑務所出所者等の就労支援事業に携わっておられる男性（手紙、メール）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団塊世代によるNPO法人を立ち上げ準備中。その事業の一つとして、若者へのキャリア教育、学校への講師派遣、若年就労困難者への就労相談、支援も考えている。</li> <li>・ 今後の活動のご参考に。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接お目にかかり、お話をうかがう。</li> <li>その後、刑務所出所者の就労支援に関する日本経団連等の活動についても問合せがあり、関係省庁に紹介。</li> </ul>
2	ジャーナリストの男性（手紙）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日経新聞に掲載された田村座長の文章にある「エミール」の言葉は本質をついたもの。</li> <li>・ 本気でやる人が少ない。人材を生かせるシステムがないか、役人が無能なのではないか。</li> </ul>	（・ 田村座長と親交のある方からの私信的なものと思われるため、事務局としては特に対応せず。）
3	公益法人に勤務されている女性（手紙、メール）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学ぶ意欲のある若者」に対しての支援が急務。特に「学ぶ意欲がありながら家庭の経済的困難で学ぶ機会を奪われることのない仕組づくりが必要で、奨学金制度の充実を。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奨学金について、現行制度及び文部科学省の回答を添えて返答。その後さらにメールを頂いたため、電話でお礼と補足説明。</li> </ul>
4	市の中学校相談員をしておられる女性（手紙）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平穏だった生徒が、特に養育環境により様変わりしていつてしまう事例が毎年あり、如何ともしがたい現実に空しさを覚えることもある。彼らに自尊感情や肯定感を育てるには早期キャリアカウンセリングの継続が必要ではないか。</li> </ul>	（・ 田村座長と親交のある方からの私信的なものと思われるため、事務局としては特に対応せず。）